



日 時：6月25日（土）
場 所：整肢学院
参加者：計画 205名（委員会:55名・新人:120名・他委員会:30名）
結果 205名（委員会:56名・新人:106名・他委員会:43名）

整肢学院レクリエーションの企画と実施

自ら見定めた目標に向かって挑戦する意欲と、まちのために共に力を合わせ為すべきことを為す強い信念を育みます。実施後のアンケートでは、「ブースの企画運営に対し意欲的に活動できたか」・「事前の施設との意見交換会において自分が社会に対して何が出来たのか考えることができたか」・「社会貢献に対して意識は高まったか」・「今後のJC活動に対する士気は高まったか」という点において、それぞれ高まったという回答を90%以上頂きました。
【工夫した点】職業体験（Jザニア）というテーマで開催。体の不自由な子ども達に少しでも多くの体験をさせてあげたいという熱い思いが沸き立った。

未来のまちを描けるリーダーの創出を目指して

本年度、潜在力開発特別委員会では、「輝かそう未来のために！スイッチ ON！！」をテーマに掲げ、自分たちのすみ暮らし働くまちに関心を持ち、身の周りで起こる事象を自分の事として捉え、人として当たり前のことを当たり前に出来る為すべきことを為す強い信念を抱き、目標に成し遂げる意欲を有し、自らが未来のまちを描くことが出来る力溢れるリーダーを創出することを目的に一年間活動を行ってきました。
そのために私たちは、新入会員の入会式を通し、先人たちが創り上げてきたまちの歴史や継承されてきた文化や様々なまちに住み暮らす人びとの姿を伝え、住み暮らし働くまちへの関心を開花させる事が出来ました。そして、理事会の設営を通し未来のまちのために、多くの仲間と共に自ら積極的に先頭に立ち新たな取り組みにチャレンジをしている姿を目の当たりにする場を創り上げ、自らのまちで起こる問題を自分事として捉える姿勢に共感し、共に立ち向かうとする責任感を醸成しました。また、新人セミナーではこれまで積み重ねてきた経験を基にした価値観を抱き、同じ目標に向けて行動を共にしていく仲間たちと触れあい、物事の本質を掘み取ることの大切さを強く訴え、まちのために共に力を合わせ為すべきことを為す強い信念を育みました。さらに、整肢学院レクリエーション事業では、過去の経験や自己の立場にとらわれることなく、相手を想い取り組むことの大切さと成し遂げたときの自信と社会からの期待感を感じてもらう機会を設け、自ら見定めた目標に向かって先頭を走る積極果敢に挑戦する意欲を沸き立たせました。そして、新人企画事業では、今まで体験したことがないことへ挑戦するステージを提供することで、新しいまちの姿を描き未来のまちに煌めくクリエイティブなリーダーを創り出しました。
最後に、本年度の活動を通じて、多くの仲間とともに同じ時間を過ごし、多くの力溢れるリーダーを溢れさせることが出来ました。
本当に、本当に一年間ありがとうございました。

STAFF

委員長 山路 晃誉	副委員長 稲見 宗彦	委 員 青木 慎介	上原 英雄	吉良 俊彦	ラジコパル サッシュマル	玉城 勇人	西野 嘉一	森 馨
幹 事 井上 綾	植田 耕一	新居 誠治	植松 大介	熊田 篤嗣	塩津 立人	玉山 善博	西本 真悟	門那 宏徳
坂井原 正光	大西 直	安藤 利江	牛渡 裕也	黒田 健夫	白川 洋之	田村 大作	能村 晋太郎	矢野 正治
高波 幸治	津和 邦嘉	池田 敬	宇都宮 和加人	小谷 法子	辻野 晃弘	辻野 晃弘	箸本 陽介	山本 元
細川 直人	藤井 章弘	池元 宏行	岡田 崇	小林 英彰	末廣 徳司	寺川 康治郎	濱浦 輝行	吉武 涼子
	藤重 智明	石川 智也	岡村 充	小林 雄	須山 和彦	富田 かおり	原田 崇	吉本 千春
	森本 成俊	伊田 宗樹	奥田 昌己	小山 徹	高原 一磨	富田 博文	平野 耕三	
		伊藤 勝彦	小倉 康代	佐尾 貴規	竹内 万征	中嶋 信彰	藤田 欽也	
		井上 陽介	香川 正和	酒井 七郎	田中 誠	中野 剛人	古山 久幸	
		今井 佐和子	北畑 博之	阪本 真一	谷中 克行	中村 佳織	真殿 昌美	
			金 裕珠		田原 洋司	夏山 純也	三浦 正行	



委員長 山路 晃誉
Akiyoshi Yamaji

大阪プレゼンス確立グループ

Osaka Presence Establishment Group

JCI 大阪プレゼンスの 確立を！

組織の圧倒的な存在感を 国内外に発信し確立する



本年は、常任理事 大阪プレゼンス確立グループ 室長、また総務広報特別会議 議長として、「凛々しいまち大阪の実現」に向け邁進してまいりました。
大阪プレゼンス確立グループは、「JCI大阪プレゼンスの確立を！」をグループテーマとして掲げ、JCI大阪のプレゼンスすなわち、JCI大阪という組織の圧倒的な存在感を国内外に発信し確立することを目的としてまいりました。圧倒的な存在感とは人数だけで他を威圧する意味合いではなく、メンバーの資質向上から生まれる、JCI日本、また大阪のまちにとってなくてはならない存在であることの存在感を意味しています。そのメンバー資質の向上を目指すべく1委員会1会議体がその両翼を担ってまいりました。
まず、存在感発信委員会はLOMを代表しJCI日本で活躍するメンバーにスポットをあて、そしてその活躍する場にJCI大阪メンバーに参加促進を行い、JCI日本における資質高いJCI大阪メンバーの存在感を極めたたせ、その出向メンバーの存在をJCI大阪メンバーが誇りに思える事業を展開してまいりました。また、長年友好を培ってきました友好LOMとの交流の場を設え、JCI大阪が資質として持ちあわすホスピタリティを発揮し、JCI大阪と友好LOMとの更なる親交を深めることができました。さらに、メンバーの活躍する姿をタイムリーにホームページ等の媒体に発信し、メンバー自身の誇りや更なる行動への意識付けを一年間通じて行ってまいりました。
そして総務広報特別会議ですが、この会議体は総務と広報の両面を併せ持つ会議体として一年間活動してまいりました。特に広報の面では対外広報を担当したのですが、対外広報が対外だけに効果をもたらすものではないという点が本年度の運動のポイントです。JCI大阪メンバーが大阪のまちに対して発信する様々な運動をホームページ等の対外ツールを利用してその様子を発信し、まちの人々にJCI大阪の存在、いって言えばなくてはならない存在であることを広く認知することによって、JCI大阪メンバーの更なる運動展開へのモチベーションへと繋げることができました。そして総務の面では、次代への変化に対応すべく諸規則の整備を行い、組織をより効率的かつ機能的に運営する一助となったものと確信しております。
本年度の当グループの方向性はすべて、メンバーが為すべきこと為すべく活動できる資質の向上を目的として活動してまいりました。JCI大阪メンバーのポテンシャルは計り知れないものがあります。次年度以降もそのポテンシャルを存分に発揮できる、更なる資質向上を図って頂くことを切に願い、一年の締め括りとさせていただきます。

室長 中川 晃一
Koichi Nakagawa

